

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 斎藤 真緒

講義内容・テーマ

「社会調査士」および「社会調査士」は調査士プログラムの中核をなす科目であり、フィールド実習を中心に、毎週2コマ連続で開講する。この科目は2回生の前期夏休みまでの間に調査主題、フィールド、仮説構築、調査票作成、サンプリングと配布、回収から準備的なデータ入力・解析までを行う。これに続いて2回生後期には本格的なデータ入力・解析から報告書の執筆完成へと進んでいく。

社会学の社会調査の主題は日常の人びとの生活であり、暮らしである。ある人は家族の一員であり、家族は収入源としての職業、労働活動を行っている。同時にその家族は地域社会に根ざした地域生活を送っている。家族、地域、労働という3つの領域が重なることで人びとの暮らしが成り立っている。その様相を調査を通して把握し、人間と社会を理解することがこの科目の目的であり、その途上で社会調査のスキルが自ずから身につくことになる。

担当者は家族、地域、労働を総合的に観察することのできる調査主題とフィールドについて腹案を持っているが、重要なことなので、開講時に受講生に直接説明することにした。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

この科目は当然、プログラムに登録し調査士を受講済みであることが条件である。また社会統計学や社会調査論などの関連科目をひとつと受講済みであることが望ましい。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
レポート	50%	フィールドでのインフォーマントからの聞き取り、仮説構築、質問紙作成など、授業の進行に応じてさまざまな文書を作成する必要があるが、それらが取っていればレポートであり評価の対象物である。
日常点(小テスト)	50%	小テストなどは行わない。広義の調査活動全般が日常点としての評価対象となる。

講義スケジュール

内容	キーワード
第1回 調査主題と調査フィールドの検討 その1	
第2回 調査主題と調査フィールドの検討 その2	
第3回 主題別班編制 班別に作業仮説の検討 その1	
第4回 主題別班編制 班別に作業仮説の検討 その2	
第5回 予備調査 現地視察 インフォーマント聞き取り その1	
第6回 予備調査 現地視察 インフォーマント聞き取り その2	
第7回 予備調査 現地視察 インフォーマント聞き取り その3	
第8回 予備調査 現地視察 インフォーマント聞き取り その4	
第9回 仮説の構築 その1	
第10回 仮説の構築 その2	
第11回 サンプリング その1	
第12回 サンプリング その2	
第13回 調査票(案)作成 その1	
第14回 調査票(案)作成 その2	
第15回 調査票(案)作成 その3	

テキスト

調査士の先輩たちが作成した報告書がテキストである。それらをよく読んで長所を学び、欠点を補うにはどうするかを考えてほしい。

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 時間割等参照

担当教員 斎藤 真緒

講義内容・テーマ

「社会調査士」および「社会調査士」は調査士プログラムの中核をなす科目であり、フィールド実習を中心に、毎週2コマ連続で開講する。この科目は2回生の前期夏休みまでの間に調査主題、フィールド、仮説構築、調査票作成、サンプリングと配布、回収までを行う。これに続いて2回生後期にはデータ入力、分析、報告書の執筆完成へと進んでいく。

社会学の社会調査の主題は日常の人びとの生活であり、暮らしである。ある人は家族の一員であり、家族は収入源としての職業、労働活動を行っている。同時にその家族は地域社会に根ざした地域生活を送っている。家族、地域、労働という3つの領域が重なることで人びとの暮らしが成り立っている。その様相を調査を通して把握し、人間と社会を理解することがこの科目の目的であり、その途上で社会調査のスキルが自ずから身につくのである。

担当者は家族、地域、労働を総合的に観察することのできる調査主題とフィールドについて腹案を持っているが、重要なことなので、開講時に受講生に直接説明することにした。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

この科目は当然、プログラムに登録し調査士を受講済みであることが条件である。また社会統計学や社会調査論などの関連科目をひとつと受講済みであることが望ましい。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
レポート	50%	フィールドでのインフォーマントからの聞き取り、仮説構築、質問紙作成など、授業の進行に応じてさまざまな文書を作成する必要があるが、それらが取っていればレポートであり評価の対象物である。
日常点(小テスト)	50%	小テストなどは行わない。広義の調査活動全般が日常点としての評価対象となる。

講義スケジュール

内 容	キーワード
-----	-------

第1回 調査票の回収(現地合宿行動)

第2回 調査票の整理作業、綴じ込み、ナンバリング その1

第3回 調査票の整理作業 綴じ込み ナンバリング その2

第4回 データ入力作業 その1

第5回 データ入力作業 その2

第6回 自由回答の整理 その1

第7回 自由回答の整理 その2

第8回 面接による補足調査 その1

第9回 面接による補足調査 その2

第10回 アフタコーディング その1

第11回 アフタコーディング その2

第12回 データ解析作業 その1

第13回 データ解析作業 その2

第14回 データ解析作業 その3

第15回 中間報告会

テキスト

調査士の先輩たちが作成した報告書がテキストである。それらをよく読んで長所を学び、欠点を補うにはどうするかを考えてほしい。

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 辻 勝次

講義内容・テーマ

「社会調査士」および「社会調査士」は調査士プログラムの中核をなす科目であり、フィールド実習を中心に、毎週2コマ連続で開講する。この科目は2回生の前期夏休みまでの間に調査主題、フィールド、仮説構築、調査票作成、サンプリングと配布、回収から準備的なデータ入力・解析までを行う。これに続いて2回生後期には本格的なデータ入力・解析から報告書の執筆完成へと進んでいく。

社会学の社会調査の主題は日常の人びとの生活であり、暮らしである。ある人は家族の一員であり、家族は収入源としての職業、労働活動を行っている。同時にその家族は地域社会に根ざした地域生活を送っている。家族、地域、労働という3つの領域が重なることで人びとの暮らしが成り立っている。その様相を調査を通して把握し、人間と社会を理解することがこの科目の目的であり、その途上で社会調査のスキルが自ずから身につくことになる。

担当者は家族、地域、労働を総合的に観察することのできる調査主題とフィールドについて腹案を持っているが、重要なことなので、開講時に受講生に直接説明することにした。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

この科目は当然、プログラムに登録し調査士を受講済みであることが条件である。また社会統計学や社会調査論などの関連科目をひとつと受講済みであることが望ましい。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
レポート	50%	フィールドでのインフォーマントからの聞き取り、仮説構築、質問紙作成など、授業の進行に応じてさまざまな文書を作成する必要があるが、それらが取っていればレポートであり評価の対象物である。
日常点(小テスト)	50%	小テストなどは行わない。広義の調査活動全般が日常点としての評価対象となる。

講義スケジュール

内容	キーワード
第1回 調査主題と調査フィールドの検討 その1	
第2回 調査主題と調査フィールドの検討 その2	
第3回 主題別班編制 班別に作業仮説の検討 その1	
第4回 主題別班編制 班別に作業仮説の検討 その2	
第5回 予備調査 現地視察 インフォーマント聞き取り その1	
第6回 予備調査 現地視察 インフォーマント聞き取り その2	
第7回 予備調査 現地視察 インフォーマント聞き取り その3	
第8回 予備調査 現地視察 インフォーマント聞き取り その4	
第9回 仮説の構築 その1	
第10回 仮説の構築 その2	
第11回 サンプリング その1	
第12回 サンプリング その2	
第13回 調査票(案)作成 その1	
第14回 調査票(案)作成 その2	
第15回 調査票(案)作成 その3	

テキスト

調査士の先輩たちが作成した報告書がテキストである。それらをよく読んで長所を学び、欠点を補うにはどうするかを考えてほしい。

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 前期 単位数 2 担当回生 時間割等参照
 担当教員 辻 勝次

講義内容・テーマ

「社会調査士」および「社会調査士」は調査士プログラムの中核をなす科目であり、フィールド実習を中心に、毎週2コマ連続で開講する。この科目は2回生の前期夏休みまでの間に調査主題、フィールド、仮説構築、調査票作成、サンプリングと配布、回収までを行う。これに続いて2回生後期にはデータ入力、分析、報告書の執筆完成へと進んでいく。

社会学の社会調査の主題は日常の人びとの生活であり、暮らしである。ある人は家族の一員であり、家族は収入源としての職業、労働活動を行っている。同時にその家族は地域社会に根ざした地域生活を送っている。家族、地域、労働という3つの領域が重なることで人びとの暮らしが成り立っている。その様相を調査を通して把握し、人間と社会を理解することがこの科目の目的であり、その途上で社会調査のスキルが自ずから身につくのである。

担当者は家族、地域、労働を総合的に観察することのできる調査主題とフィールドについて腹案を持っているが、重要なことなので、開講時に受講生に直接説明することにした。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

この科目は当然、プログラムに登録し調査士を受講済みであることが条件である。また社会統計学や社会調査論などの関連科目をひとつと受講済みであることが望ましい。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
レポート	50%	フィールドでのインフォーマントからの聞き取り、仮説構築、質問紙作成など、授業の進行に応じてさまざまな文書を作成する必要があるが、それらが取って代わればレポートであり評価の対象物である。
日常点(小テスト)	50%	小テストなどは行わない。広義の調査活動全般が日常点としての評価対象となる。

講義スケジュール

内 容	キーワード
第1回 調査票の回収(現地合宿行動)	
第2回 調査票の整理作業、綴じ込み、ナンバリング その1	
第3回 調査票の整理作業 綴じ込み ナンバリング その2	
第4回 データ入力作業 その1	
第5回 データ入力作業 その2	
第6回 自由回答の整理 その1	
第7回 自由回答の整理 その2	
第8回 面接による補足調査 その1	
第9回 面接による補足調査 その2	
第10回 アフタコーディング その1	
第11回 アフタコーディング その2	
第12回 データ解析作業 その1	
第13回 データ解析作業 その2	
第14回 データ解析作業 その3	
第15回 中間報告会	

テキスト

調査士の先輩たちが作成した報告書がテキストである。それらをよく読んで長所を学び、欠点を補うにはどうするかを考えてほしい。

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 辻 勝次

講義内容・テーマ

この科目は調査士、に続く本プログラムの中核科目である。すでに調査士、によって調査票が回収され、基本的なデータ入力、コーディングなどが終了していることを前提にしてこの科目が始動する。この科目では調査士プログラムの集大成となる「報告書」の完成から協力者への還元である現地説明会まで進める。

もう一つの重点は質的調査データの作成、利用、活用を報告書の作成作業の過程で具体的に学ぶ。フィールドでは様々なインフォーマントからの聞き取りを行い、面接記録(フィールドノート)が蓄積されている。官庁統計や関連団体から入手したデータもある。各種の広報や新聞記事などもある。調査票による数字の分析は調査の重要な部分ではあるが、それだけでは立体感に欠ける。数字の背後にある社会的現実を読み解くには質的データを組み合わせる必要がある。目標としては数的データと量的データの統合を目指しながら報告書の作成を進めるのがこの科目である。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

調査はアンケート(調査票調査)だけでは完結しないという当然のことを理解してほしい。数字の解釈や評価には質的データを参照しなければならない。量と質の統合を目指すために質的データの扱いに習熟することが目指される。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
レポート	50 %	インフォーマントからの聞き取り記録、フィールドノートの作成は重要な評価対象である。
日常点(小テスト)	50 %	小テストは行わない。報告書の完成には全員の協力とチームワークが必要であり、さまざまな作業に積極的に参加することが重要なので日常点を重視する。

講義スケジュール

内容	キーワード
第1回 データ解析方針 量的データを中心に その1	
第2回 データ解析方針 質的データを中心に その2	
第3回 インフォーマントからの聞き取り記録のデータ化	
第4回 官庁統計、機関統計の所在確認と体系化	
第5回 新聞記事、各種広報の利用	
第6回 自由回答の書き出しとコーディング	
第7回 量的データと質的データの統合 その1	
第8回 量的データと質的データの統合 その2	
第9回 量的データと質的データの統合 その3	
第10回 報告書の執筆 その1	
第11回 報告書の執筆 その2	
第12回 中間報告会	
第13回 報告書完成に向けて その1	
第14回 報告書完成に向けて その2	
第15回 完成報告会	

テキスト

先輩の作成してきた報告書がいわばテキストである。先輩たちの長所と改善課題を報告書から読み取ってこの授業の報告書作成に活用する。

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 時間割等参照
 担当教員 斎藤 真緒

講義内容・テーマ

この科目は調査士、に続く本プログラムの中核科目である。すでに調査士、によって調査票が回収され、基本的なデータ入力、コーディングなどが終了していることを前提にしてこの科目が始動する。この科目では調査士プログラムの集大成となる「報告書」の完成から協力者への還元である現地説明会まで進める。

もう一つの重点は質的調査データの作成、利用、活用を報告書の作成作業の過程で具体的に学ぶ。フィールドでは様々なインフォーマントからの聞き取りを行い、面接記録(フィールドノーツ)が蓄積されている。官庁統計や関連団体から入手したデータもある。各種の広報や新聞記事などもある。調査票による数字の分析は調査の重要な部分ではあるが、それだけでは立体感に欠ける。数字の背後にある社会的現実を読み解くには質的データを組み合わせる必要がある。目標としては数的データと量的データの統合を目指しながら報告書の作成を進めるのがこの科目である。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

調査はアンケート(調査票調査)だけでは完結しないという当然のことを理解してほしい。数字の解釈や評価には質的データを参照しなければならない。量と質の統合を目指すために質的データの扱いに習熟することが目指される。

評価方法・基準

評価方法	割合	詳細
レポート	50 %	インフォーマントからの聞き取り記録、フィールドノーツの作成は重要な評価対象である。
日常点(小テスト)	50 %	小テストは行わない。報告書の完成には全員の協力とチームワークが必要であり、さまざまな作業に積極的に参加することが重要なので日常点を重視する。

講義スケジュール

内容	キーワード
第1回 データ解析方針 量的データを中心に その1	
第2回 データ解析方針 質的データを中心に その2	
第3回 インフォーマントからの聞き取り記録のデータ化	
第4回 官庁統計、機関統計の所在確認と体系化	
第5回 新聞記事、各種広報の利用	
第6回 自由回答の書き出しとコーディング	
第7回 量的データと質的データの統合 その1	
第8回 量的データと質的データの統合 その2	
第9回 量的データと質的データの統合 その3	
第10回 報告書の執筆 その1	
第11回 報告書の執筆 その2	
第12回 中間報告会	
第13回 報告書完成に向けて その1	
第14回 報告書完成に向けて その2	
第15回 完成報告会	

テキスト

先輩の作成してきた報告書がいわばテキストである。先輩たちの長所と改善課題を報告書から読み取ってこの授業の報告書作成に活用する。

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他